

## 12 物質的豊かさと心の貧困

### ～ツーリズムから見る現代社会～

#### ○開催目的

物があふれ、何不自由なく生活できる日本にしながら、若者を中心にいじめや自殺が後を絶たず、「生きにくさ」を感じる人が増加している昨今。豊かさゆえに、私たちが見失ってしまったものとは何なののでしょうか。途上国へのスタディーツアーの現場から、現代社会を考えていきます。

#### ○開催日時

2月13日（土）14：30～17：00

#### ○参加者数・出演者・団体

参加者数：29名（参加者24名、出演者2名、スタッフ3名）

出演者・団体：磯田 浩司さん（NPO法人 good! 代表）

畝尾 知佳さん（NPO法人 アクション 海外ボランティア担当）

#### ○プログラム内容・成果と課題

##### 1 プログラム内容

###### 1) 登壇者紹介

登壇者の自己紹介をしていただきました。

###### 2) 登壇者パネルトーク

- ① 畝尾さんから、フィリピンの子どもたちの生活、実情についてご紹介いただきました。フィリピンの子どもたちは毎日生き抜くことが精いっぱい、今の生活の全部を続けられることが何よりの幸せです。そんな中で家族の存在は大きく、子どもたちは皆、学校を卒業し、仕事に就いたら家族を支えることが何よりの夢だ、とお話いただきました。フィリピンの子どもたちは、今、自分が持っているものに気づいている、その尊さや大きさを自覚しているように思えるといいます。一方、日本に住む私たちは、情報や物にあふれている中で、自分にとって大切なことが見えなくなっているのではないのでしょうか。
- ② 磯田さんからは、以前生徒の多くが不登校や知的障害を持つ子どもたち、という高校に勤務なさった経験から、現代社会で生きづらい若者、苦しんでいる若者たちについてお話いただきました。不登校の子どもの多くは、閉塞感のある日本社会で生き抜くことに心をすり減らしており、ルールをひとたび外れると元に戻るのが非常に難しい社会で生きていると言います。うざい、だるい、面倒くさい、とぼやく若者達は、みな自信を失っています。そんな子どもたちも、成功体験を繰り返すことで、自信を取り戻していきます。その一つのきっかけが、海外でのワークキャンプです。未知なる世界を知ること、いろいろな価値観の中に身を置くこと、さまざまなものさしで物事を考えられるよう

になることが、何より大切なのではないのでしょうか。

### 3) 参加者のグループトーク

登壇者の方々からのお話に基づいて、各グループで意見交換をしました。途中、グループに登壇者も参加していただきながら議論を深めました。各グループで話し合われた内容をまとめ、発表をしました。

### 4) ワークのまとめ

グループトークのまとめや最後の質疑応答を通して、登壇者からお話いただき、分科会のまとめとしました。グループトークの内容は以下の通りです。

- ① 自分の持っているものの大切さを再認識しました。たくさんの物を持ちすぎている自分に改めて気づきました。ネット社会の現在、情報があふれ、便利さの中で生活していることで、自分を見失っているように感じます。
- ② 「出会い」の大切さを感じました。出会ってくれたことが喜びだという言葉が印象的でした。
- ③ 日本の社会は往々にして均一性を善とし、それ以外を排除する傾向にありますが、全てを“受け入れる”ことが大切なのだと思います。
- ④ 日本は情報過多になり過ぎていて、自分が何に興味を持っているか、ということに気付けなくなっているのではないか、と思いました。
- ⑤ フィリピンでは、子どもたちが大きくなったら家族の支えになりたいという希望を持って生活していると伺いました。家族で自分が役割を担うことが、とても大切なのではないか、と思いました。

## 2 成果と課題

- 1) この分科会では、現代の心の貧困を“ツーリズム”を通して解明していきました。経験豊かな登壇者の方々のお話は非常に興味深く、参加者の多くの心に響くものでした。
- 2) 情報や物の氾濫によって、自分自身を見失い、いつのまにか自信を失ってしまう、それが今の多くの若者が抱えている苦しみなのではないか、彼らの自信を取り戻すためにも、さまざまな経験やいろいろな人の出会いから多様な尺度で物を見られるようになること、何より“自分自身のいろいろな感情に出会う”ことが大切なのではないか、という結論に達しました。
- 3) 課題としては、今回は“海外ワークキャンプ”を通して現代日本社会での生きづらさについて考えていきましたが、日本国内でもどうしたらこのような若者たちが自信を取り戻せるのか、というより具体的な内容を考察していければよいと思います。

### ○参加者の声

- ・豊かさとは何だろうと改めて考えさせられました。日本の子どもの生き難さを再認識

できました。

- 心の苦しみは、情報過多によるマヒなのだなあと改めて思いました。
- 自分の持っている物の大切さ、出会いについて学ぶ、いろいろなきっかけになりました。
- とても勉強になりました。これから自分がやりたい夢を後押ししていただく機会になりました。本当にうれしかったです。
- 講師の方のお話を聞くだけでなく、周りの方々のお話も聞くことができよかったです。

## ○担当者・記録

《担当》

内田 智子（NPO 法人 ESA アジア教育支援の会）

神元 幸津江（いたばし総合ボランティアセンター）

小川 美佐子（NEC ネットエスアイ株式会社）

後藤 浩二（スープの会）

杉村 郁雄（NPO 法人日本ファシリテーション協会）

《記録》

内田 智子（NPO 法人 ESA アジア教育支援の会）

